

大堀で新店舗オープン

陶吉郎窯 近藤 学さん

震災後初めて、大堀地区に窯元が帰還しました。「陶吉郎窯」の近藤学さんです。6月30日(日)、工房・店舗をオープンさせ、ふるさとでのなりわい復活に意欲を燃やしています。



「ここに帰ってきた一番の目は伝統継承。なりわいとして成り立たせて、新たな担い手の育成もしていきたい。」
 近藤さんは震災後、避難先のいわき市に工房を移転し、伝統の技術を守ってきました。一方、故郷での作陶が叶わぬ日々「自分の代で大堀相馬焼は終わるかもしれない」という思いが頭をよぎったといいます。転機となったのは2023年3月、特定復興再生拠点区域として大堀地区の一部が避難指示解除されたことです。「伝統の地での再開こそが本来の姿。産地復活につなげたい」と大堀での復活を決意し、準備を進めてきました。



陶吉郎窯
近藤 学さん

店舗情報

【住 所】
浪江町大字大堀字後畑98-1
 【営業時間】
10時～18時
 【定休日】
火曜日
 (※いわき市から通っての営業のため、臨時休業もあり)



店舗に並ぶ作品

今後はいわき市と大堀で作陶する2拠点体制をとります。大堀の店舗に並ぶ作品は約400点。青ひび、二重構造といった従来の作品のほか、会津の漆器塗と共同製作した器もつくり、新しい風を吹きこんでいます。
 近藤さんは「今は自分1軒だけだが、いつか複数の窯元が集まってほしい」と話し、大堀の地で作陶に取り組んでいます。

伝統のさけ漁復活へ



さけふ化施設 (小野田地区) 完成イメージ



震災前のさけの採捕の様子

さけふ化施設 着工

令和7年度完成予定

震災後中断しているさけのふ化と採捕事業を再開させるため、さけふ化施設と採捕付帯施設整備工事が6月12日(水)、小野田、北幾世橋地区で着工しました。令和7年3月末までに完成予定です。完成後は、さけの採卵やふ化、稚魚の飼育に取り組み、秋の風物詩・さけの遡上を目指していきます。
 震災前、町内には「荒井ふ化場」「刈宿ふ化場」「井手ふ化場」の3つの施設がありました。しかし震災で施設が壊れ、さけ成魚の遡上数も激減してしまいました。組合や住民の皆さんから事業再開を期待する声があり、今回、着工にいたしました。

